

2025 年度「海洋人間学」学校関係者評価

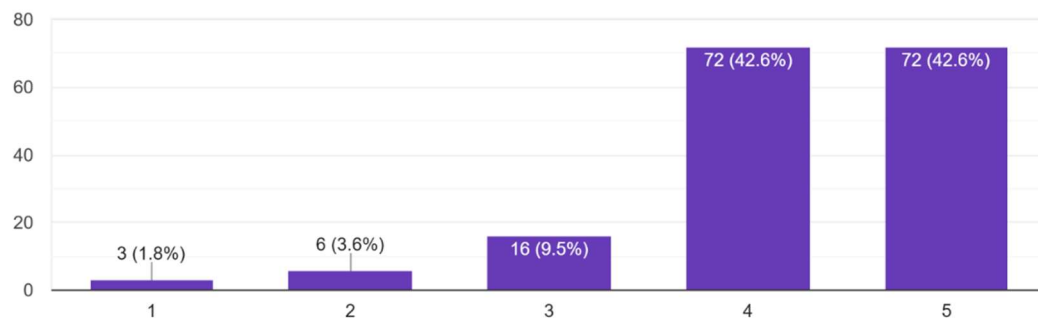
2025 年度海洋教育アンケート結果

生徒回答

<<中学 1 年生徒>>

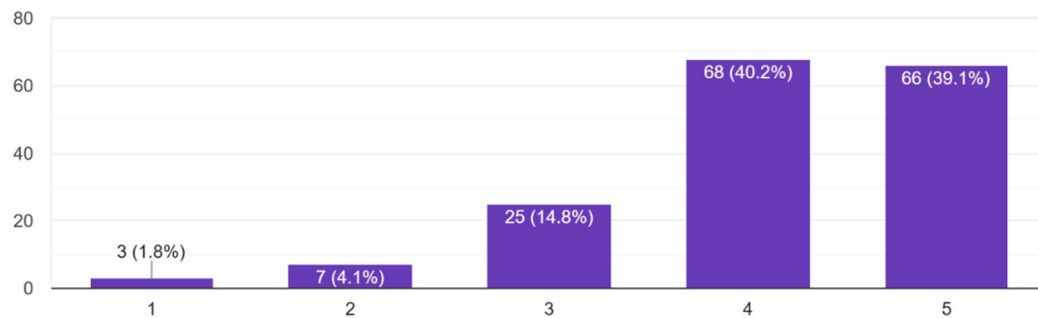
1. OP ヨット実習を通して、「風や波がヨットを動かす物理的な仕組み」を授業で学ぶ前よりも深く理解できましたか。（「1」理解できなかった⇔「5」よく理解できた）

169 件の回答



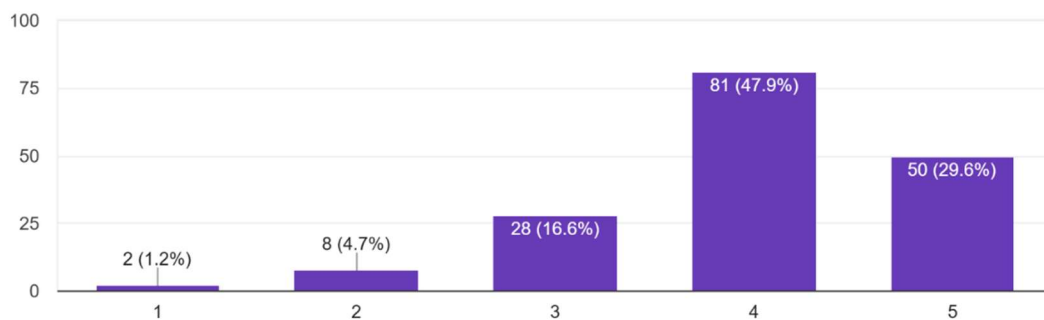
2. ヨット製作・実習におけるチーム活動を通じて、「仲間と協力して困難を乗り越える力」が身についたと感じますか。（「1」あまり感じなかった⇔「5」とても感じた）

169 件の回答



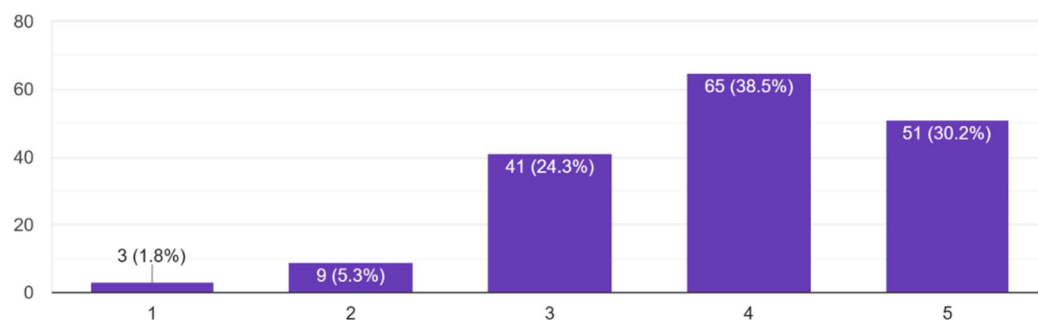
3. 総合学習(海の土曜講座企画)で、「知りたいテーマを見つけ、問いを立てる」という探究の基本プロセスを習得できましたか。(「1」習得できなかった⇔「5」習得できた)

169 件の回答



4. 海の土曜講座企画の発表を通し、「自分の考えを他者に分かりやすく伝える力」が向上したと感じますか。(「1」あまり感じなかった⇔「5」とても感じた)

169 件の回答



5. その他、海洋人間学を学習して、感じたこと、成長したこと、学んだことがあれば、簡潔に書いて下さい。

(自由記述 99)

<ヨット実習>

「風の向き」や「セールの引き方」など、基礎的な操作技術の習得に意識が集中している。期待感と同時に海の怖さ(自然の怖さ)が他学年より高く、海という未知のフィールドに対する緊張感が強く表れている。また、自分で艇を操るという「主体的操作」の意志が伝わってくる。

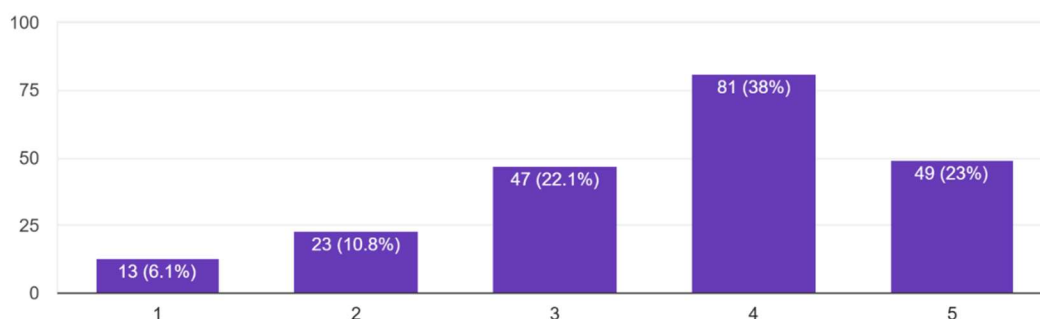
<海洋学>

「自分で調べてまとめたことを発表できるように成長した。」「情報カードを使って調べ物をするに慣れたら本を使って情報を整理することに慣れた。」など探究学習の入り口として学ぶ技術が得られたという回答が見られる。また、「海について何も知識がなかったが、自分で調べることで新しい発見があった」という知的好奇心の芽生えも見られた。

<<中学2年>>

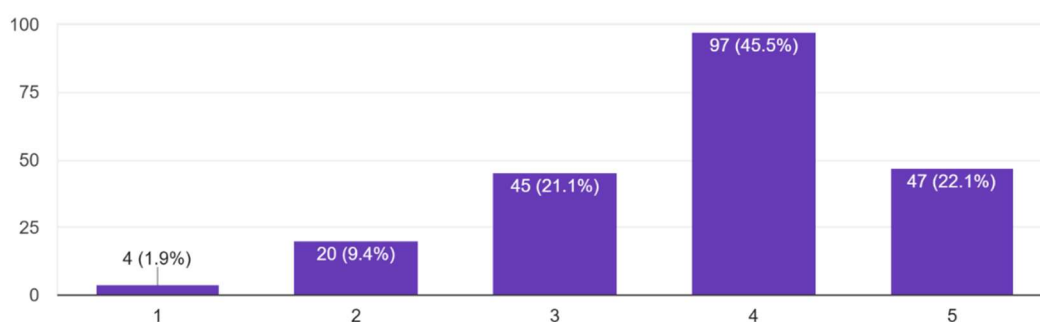
1. 2年次の OP ヨット実習を通して、「風や潮流などの自然現象を予測し、行動する判断力」が向上したと感じますか。(「1」あまり感じなかった⇔「5」とても感じた)

213 件の回答



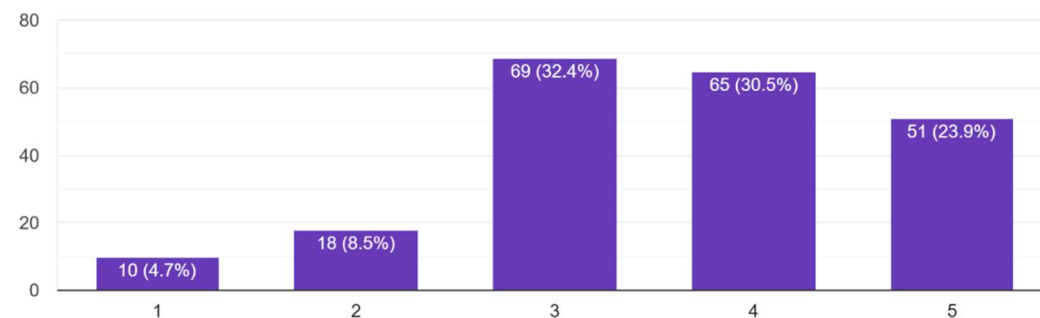
2. ディベートの準備を通し、「賛成/反対のどちらの立場でも、論理的に根拠を集めて考える力」が向上したと感じますか。(「1」あまり感じなかった⇔「5」とても感じた)

213 件の回答



3. ディベートのテーマ(水族館の是非)は、「動物の権利や環境問題」などの社会的な問題について深く考えるきっかけになりましたか。(「1」きっかけにならなかった⇔「5」大いになった)

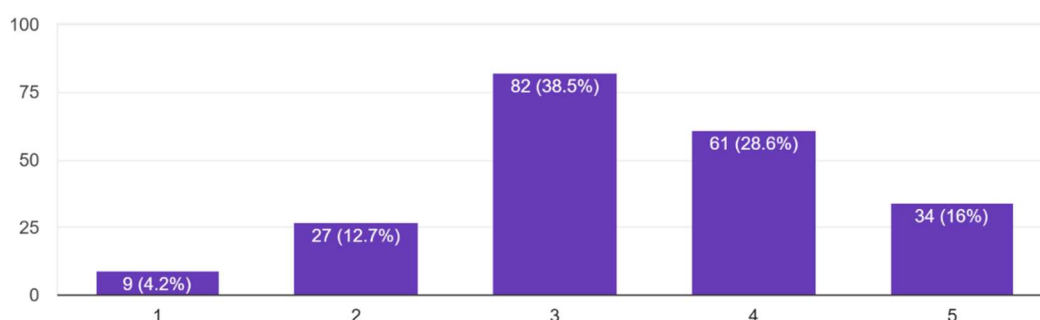
213 件の回答



4. 総合学習で学んだ多角的な視点は、他の教科の授業の理解を深めるのに役立っていますか。

(「1」あまり役立っていない⇔「5」大いに役立っている)

213 件の回答



5. その他、海洋人間学を学習して、感じたこと、成長したこと、学んだことがあれば、簡潔に書いて下さい。

(自由記述 75)

<ヨット実習>

中1の経験を踏まえ、「潮の流れ」や「風の変化」を予測するという、より高度な認識の回答が増えている。中1よりも余裕が生まれ、海の状態を客観的に見る記述や、より速く走るための試行錯誤が見られ、単なる操作から、状況判断が加わった操作へと意識や操作技術が移行している時期かもしれない。

<海洋学>

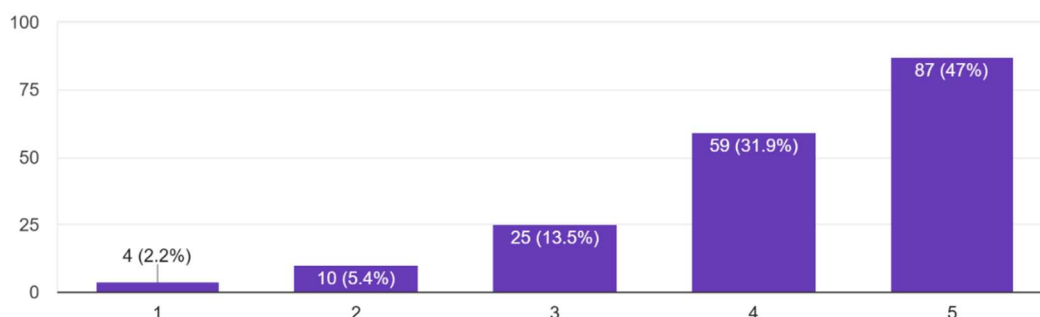
「論理的に根拠を集める力」の向上を実感している生徒が多い。自分の感情(動物が好き)とは別に、「反対の立場の意見を論理的に考える」という訓練に手応えを感じている様子が見られる。「動物の権利」という社会的な問いに対しても、多くの生徒が考えるきっかけになったと回答している。

<<中学3年>>

1. 遠泳実習の完遂は、「困難な目標に挑戦する自信」や「自己肯定感」につながりましたか。

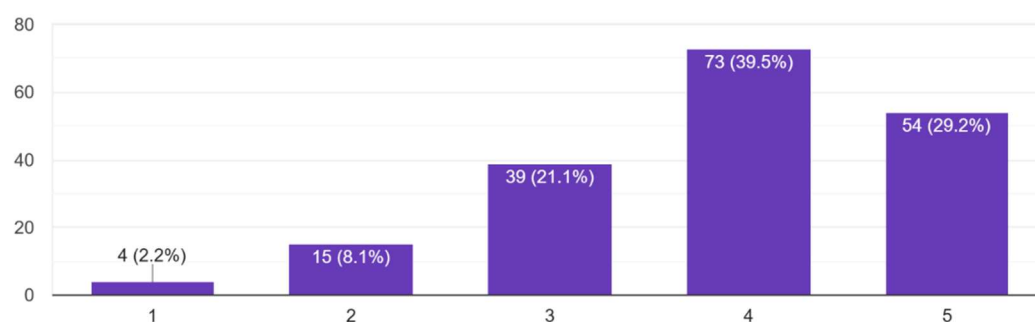
(「1」あまりつながらなかった⇔「5」大いにつながった)

185 件の回答



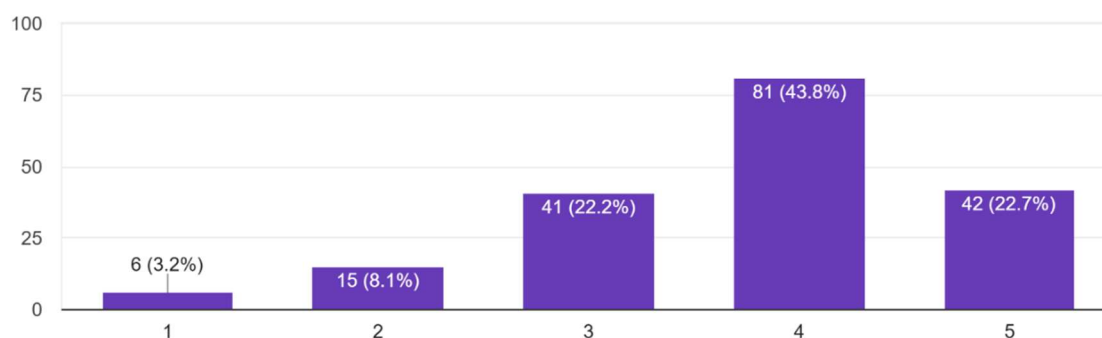
2. 「理想の水族館企画」を通じて、「海に関する様々な知識を統合し、一つのプロジェクトを構想・実現する力」が身についたと感じますか。(「1」あまり感じなかった⇔「5」とても感じた)

185 件の回答



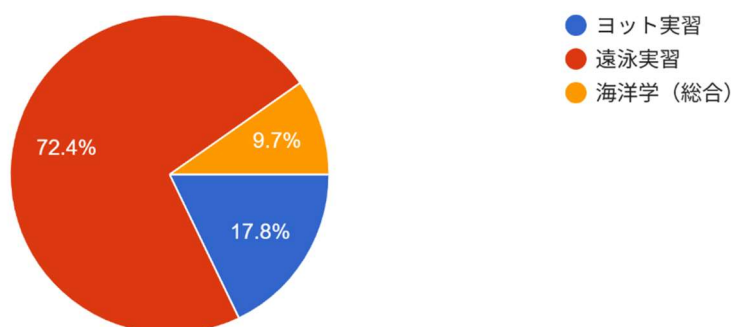
3. 理想の水族館の企画では、「環境保護や地域貢献」といった社会的な視点を考慮することができましたか。(「1」あまりできなかった⇔「5」大いにできた)

185 件の回答



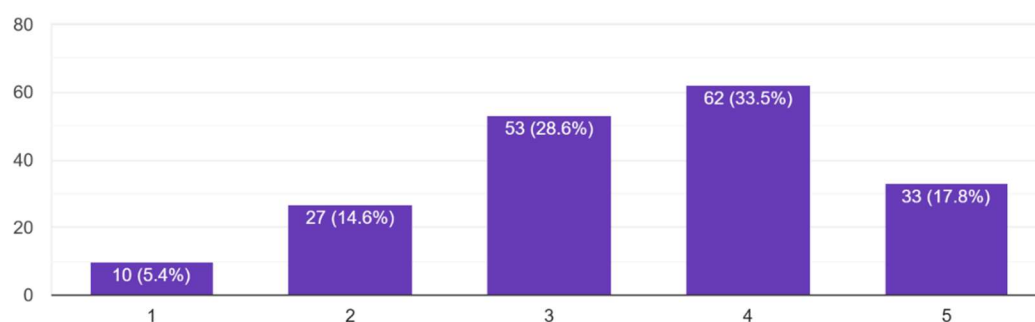
4. 中学 3 年間で体験したヨット、遠泳、総合学習のうち、あなたにとって最も精神的な成長につながったと感じる活動は何ですか。

185 件の回答



5. 逗子開成の海洋教育の学びは、高校以降の進路(研究、社会貢献、職業)を考える上で、具体的な影響を与えましたか。(「1」あまり与えていない⇔「5」大いに与えている)

185 件の回答



6. その他、海洋人間学を学習して、感じたこと、成長したこと、学んだことがあれば、簡潔に書いて下さい。

(自由記述 101)

<遠泳実習>

「自己肯定感」と「忍耐力」の項目が高い値を記録している。OP ヨットで培った「海への慣れ」を土台にしつつも、身体一つで挑む遠泳に対しては「仲間との連帯感」が成功の鍵であると回答する割合が多かった。「1.5km は気が遠くなる距離だったが、横を泳ぐバディと声を掛け合うことで、孤独ではなくチームで挑んでいるのだと強く感じた。」「ヨットで海を知っていたつもりだったが、自分の体だけで泳ぐ海は別物だった。この達成感はいずれの人生の支えになる。」

<海洋学>

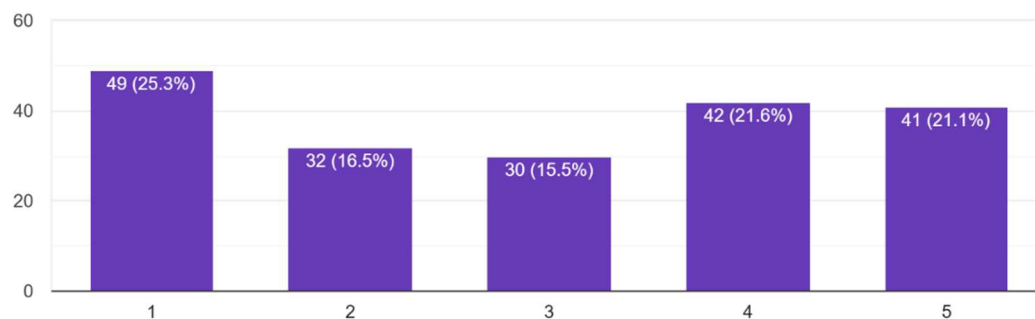
「複数の知識(理科、社会、技術等)を統合する力」がついたと感じる回答も多く見られた。中1・中2の積み重ねがあるため、「ただ調べる」のではなく「地域貢献」や「環境保護」といった社会的な付加価値を考慮した企画へと質的に変化しているように思える。

保護者回答

<<中学1年 保護者>>

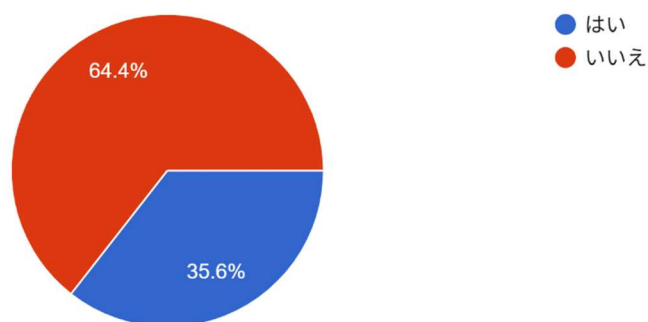
1. ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。(「1」そう思わない⇔「5」強く思う)

194 件の回答



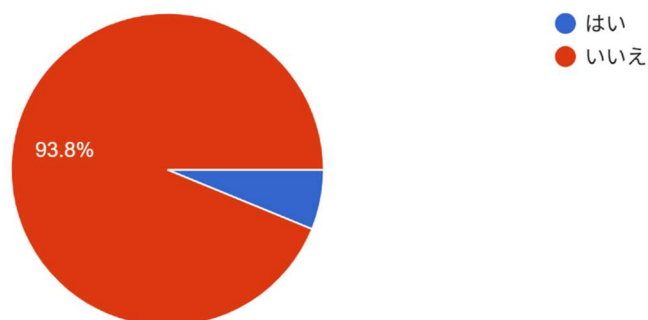
2. 本校の OP ヨット実習を見学されたことはありますか。

194 件の回答



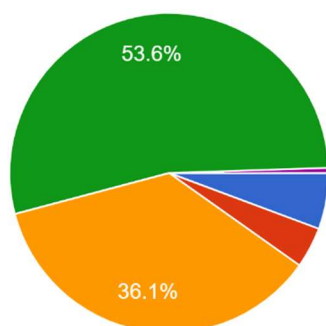
2. 本校の遠泳実習を見学されたことはありますか。

194 件の回答



4. ご自身が学校内外で海洋教育(マリンスポーツ、カルチャー講座など)を受けられたご経験はございますか。(最も当てはまるもの一つを選択してください)

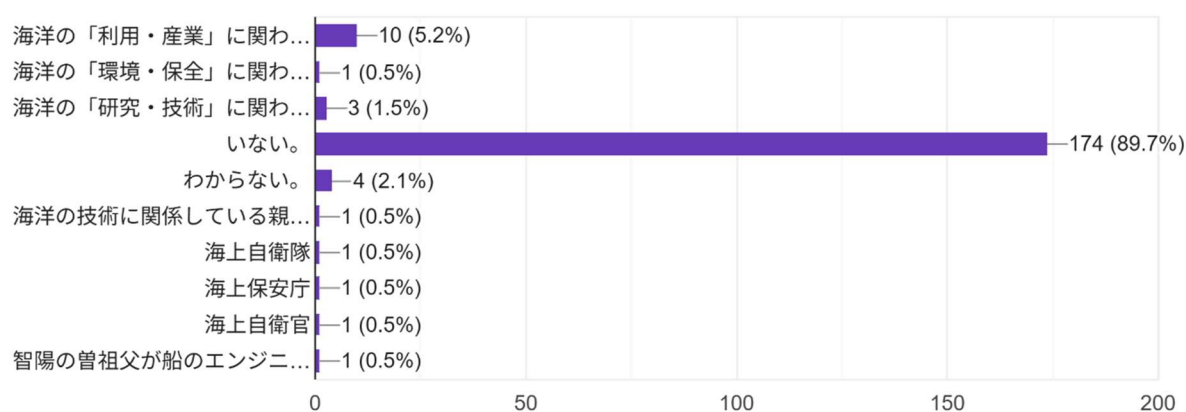
194 件の回答



- はい、学校の授業(体育、理科など)で経験がある。
- はい、学校の課外活動(修学旅行、臨海学校など)で経験がある。
- はい、学校外の活動(マリンスポーツ、カルチャー講座など)で経験がある。
- いいえ、経験はありません。
- 自身出身中高一貫校では夏期に臨海学校がありましたが自由参加であり参加しませんでした。

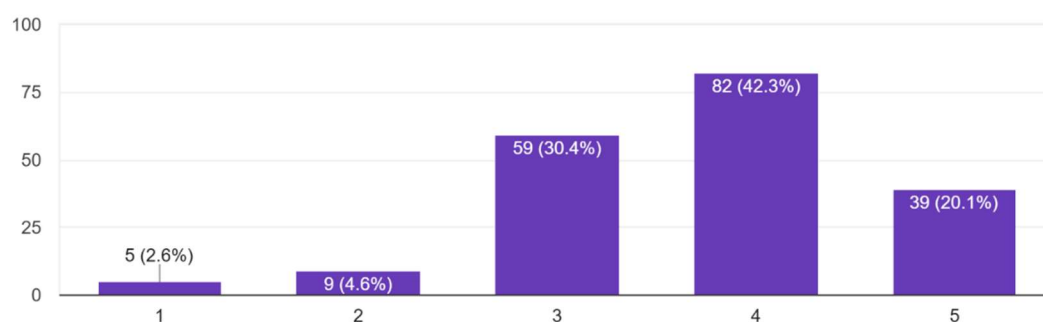
5. 海洋に関するお仕事に就かれている方が、家族やご親戚にいらっしゃいますか。複数可

194 件の回答



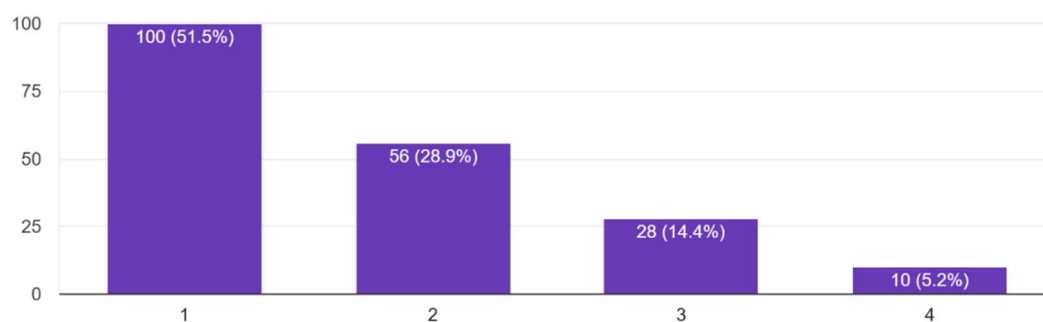
6. ご子息の OP ヨット製作・帆走実習の経験は、「最後までやり遂げる集中力」や「ものづくりへの責任感」の向上に繋がったと感じますか。(「1」そう思わない⇔「5」強く思う)

194 件の回答



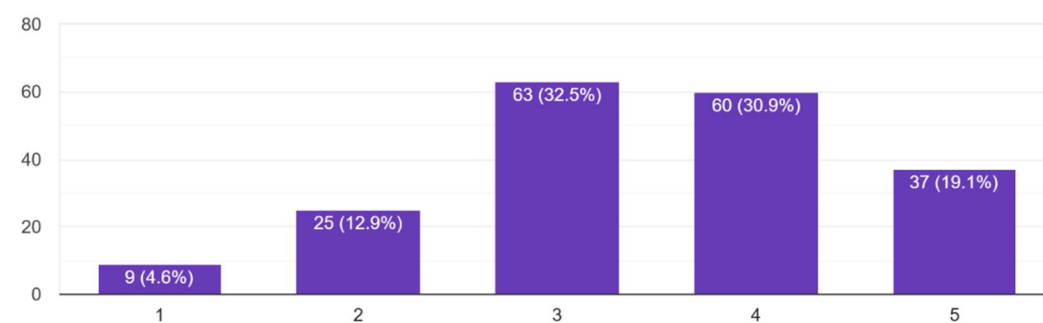
7. 総合学習(海の土曜講座企画)について、ご子息は「自分でテーマを見つける楽しさ」や「情報収集の工夫」についてご家庭で話していましたか。(「1」全く話さなかった⇔「5」頻繁に話していた)

194 件の回答



8. 海洋教育を通じて、ご子息が「海や自然に対する現実的な認識(楽しさだけでなく、危険や厳しさ)」を持つようになったと感じますか。(「1」あまり感じない⇔「5」強く感じる)

194 件の回答



9. 本校の海洋教育について、ご感想やご意見がありましたら、簡潔にお書き下さい。(自由記述 88)

<ヨット実習>

「本校の海洋教育に期待している」という回答が多数を占め、全学年で最も高い。初めての OP ヨット実習を前に、自然を相手にすることへの不安を抱えつつも、私立男子校ならではの逞しい成長を強く望んでいる姿が数値にも表れているようである。

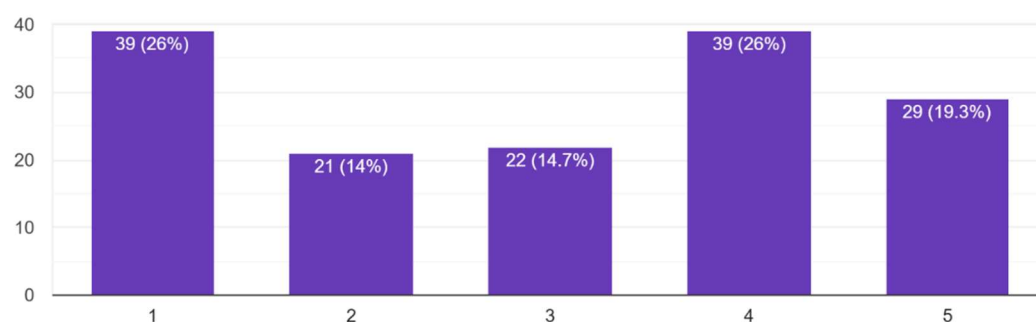
<海洋学>

「自分でテーマを見つける楽しさ」を家庭で話していたという割合は生徒の自己評価よりやや低めに出る傾向があるが、「学校の授業で興味を持ったことを家でも調べていた」という報告もあり、探究の「入り口」として機能していることが評価されている。

<<中学2年保護者>>

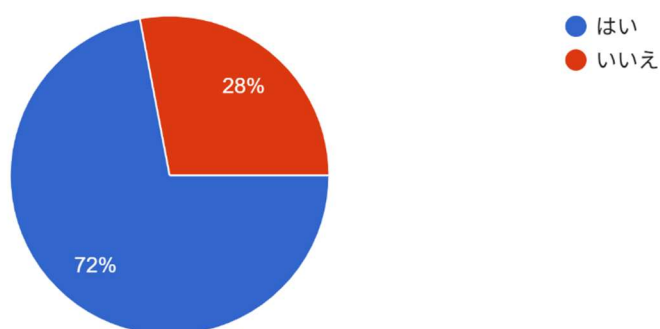
1. ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。(「1」そう思わない⇔「5」強く思う)

150 件の回答



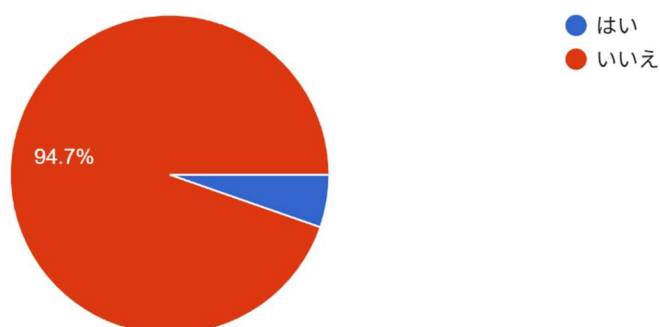
2. 本校の OP ヨット実習を見学されたことはありますか。

150 件の回答



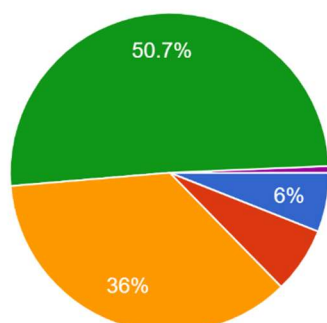
3. 本校の遠泳実習を見学されたことはありますか。

150 件の回答



4. ご自身が学校内外で海洋教育（マリンスポーツ、カルチャー講座など）を受けられたご経験はございますか。（最も当てはまるもの一つを選択してください）

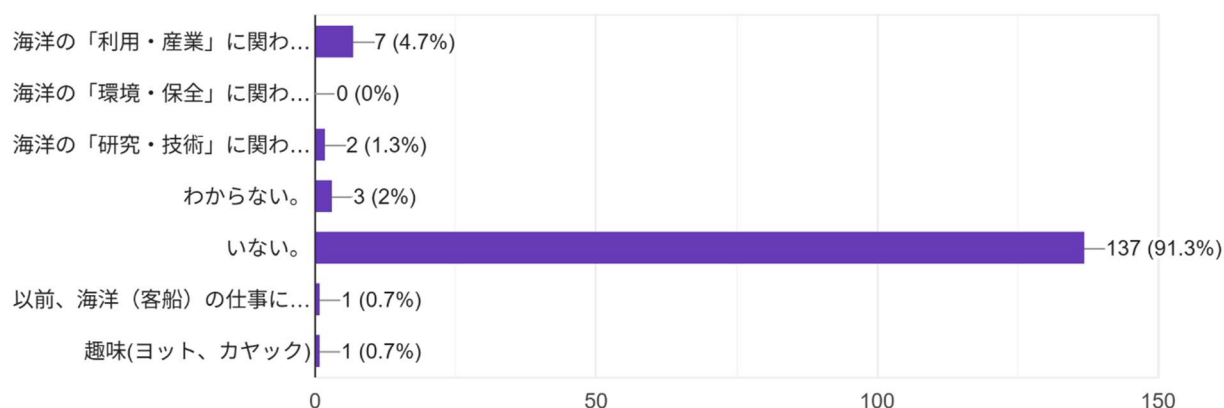
150 件の回答



- はい、学校の授業（体育、理科など）で経験がある。
- はい、学校の課外活動（修学旅行、臨海学校など）で経験がある。
- はい、学校外の活動（マリンスポーツ、カルチャー講座など）で経験がある。
- いいえ、経験はありません。
- シュノーケリングのみです。

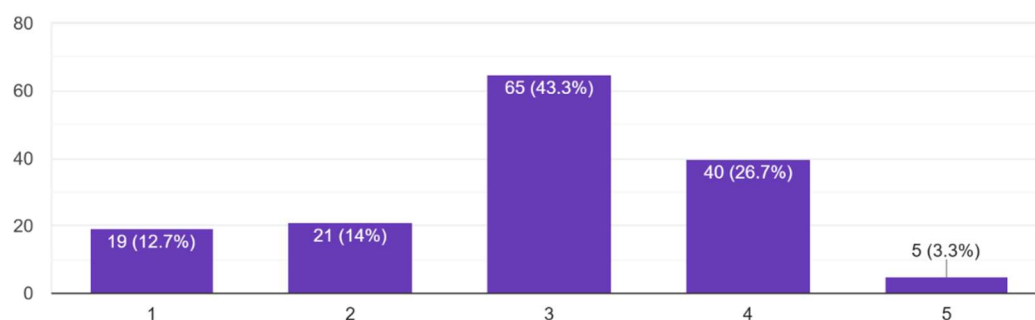
5. 海洋に関係するお仕事に就かれている方が、家族やご親戚にいらっしゃいますか。複数可

150 件の回答



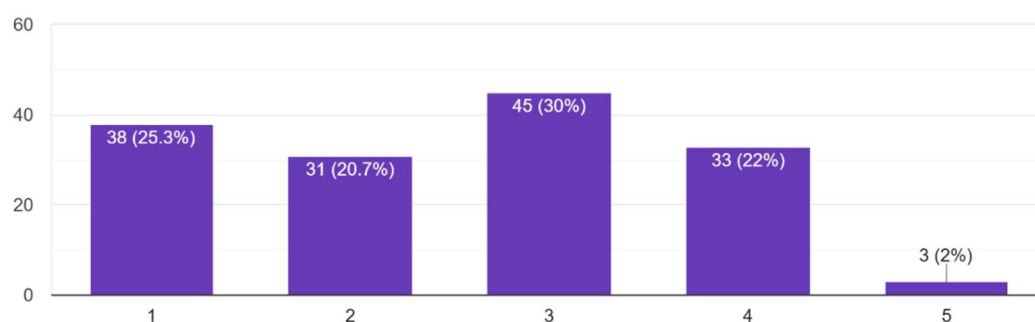
6. ディベート（水族館・動物園の是非）を通じて、ご子息の「自分の意見と異なる考えを理解しようとする姿勢」が向上したと感じますか。（「1」あまり感じない⇔「5」大いに感じる）

150 件の回答



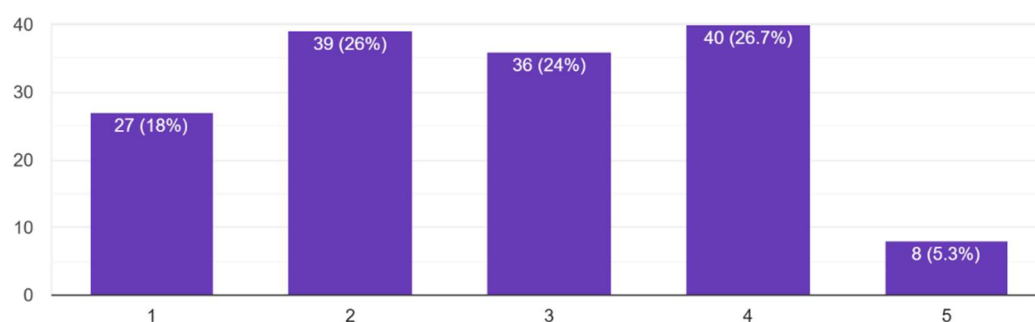
7. 総合学習の学習内容(ディベートなど)をきっかけに、ご子息が「環境問題や倫理的な課題」について、ご家庭で議論や質問をする機会が増えましたか。(「1」あまり増えていない⇔「5」大いに増えた)

150 件の回答



8. ご子息は、OP ヨット実習で学んだ知識を「状況判断や予測など、日常生活の他の場面」で応用しようとする様子を見せていますか。(「1」あまり見せない⇔「5」見せている)

150 件の回答



9. 本校の海洋教育について、ご感想やご意見がありましたら、簡潔にお書き下さい。(自由記述 70)

<ヨット実習>

「子供の主体性」を評価する項目が向上している。2 年目として、より高度な操作や判断が求められる中での成長を保護者が注視している。

<海洋学>

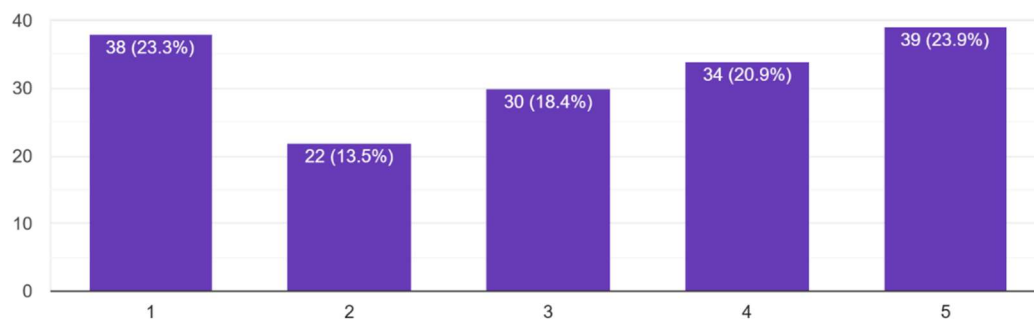
「異なる考えを理解しようとする姿勢」の向上を感じている保護者が多く、「家庭でも環境問題や動物園の存在意義についての話題があった」という記述が見られた。

<<中学3年保護者>>

1

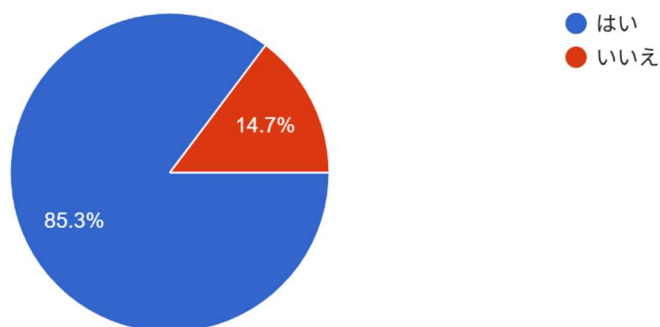
ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。

163 件の回答



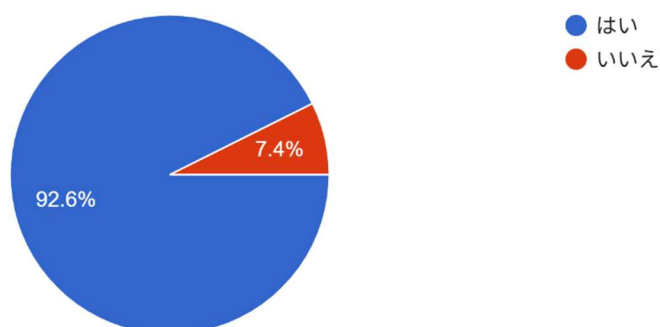
2. 本校の OP ヨット実習を見学されたことはありますか。

163 件の回答



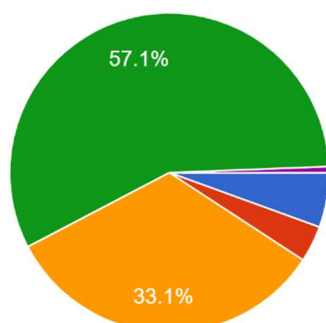
3. 本校の遠泳実習を見学されたことはありますか。

163 件の回答



4. ご自身が学校内外で海洋教育(マリンスポーツ、カルチャー講座など)を受けられたご経験はございますか。(最も当てはまるもの一つを選択してください)

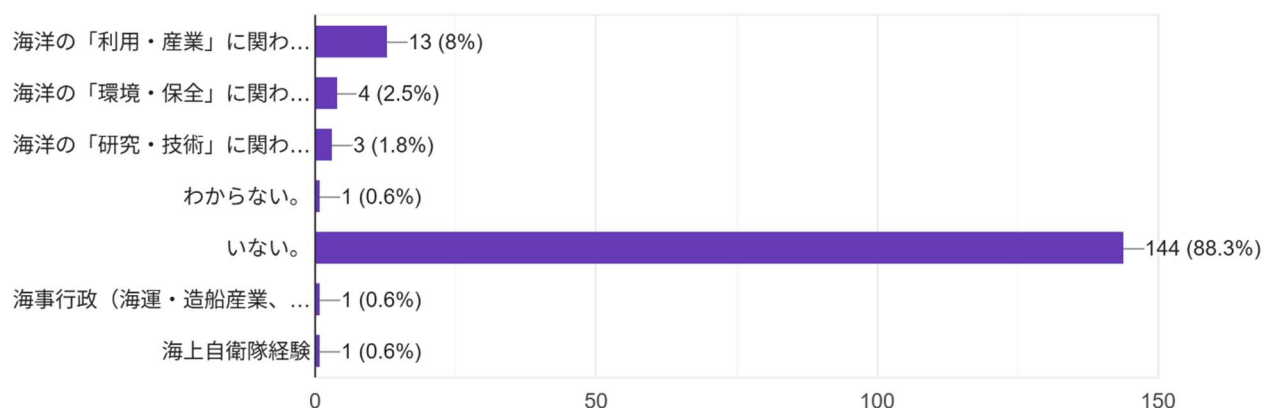
163 件の回答



- はい、学校の授業(体育、理科など)で経験がある。
- はい、学校の課外活動(修学旅行、臨海学校など)で経験がある。
- はい、学校外の活動(マリンスポーツ、カルチャー講座など)で経験がある。
- いいえ、経験はありません。
- 社会人になってからカッターとカヌーの講習を承けた経験があります。

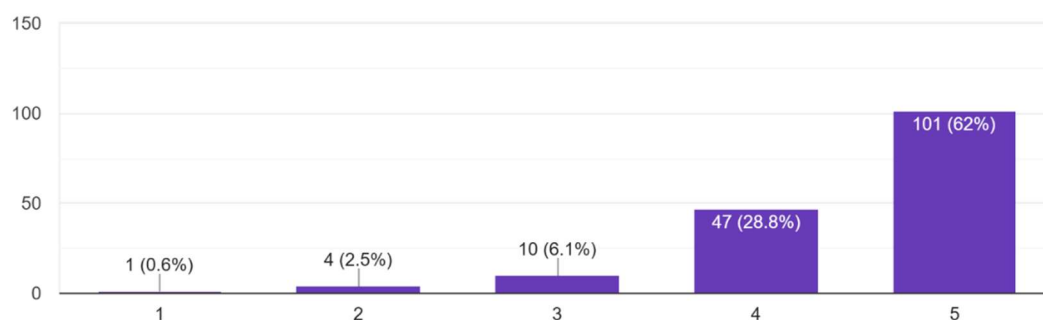
5. 海洋に関係するお仕事に就かれている方が、家族やご親戚にいらっしゃいますか。複数可

163 件の回答



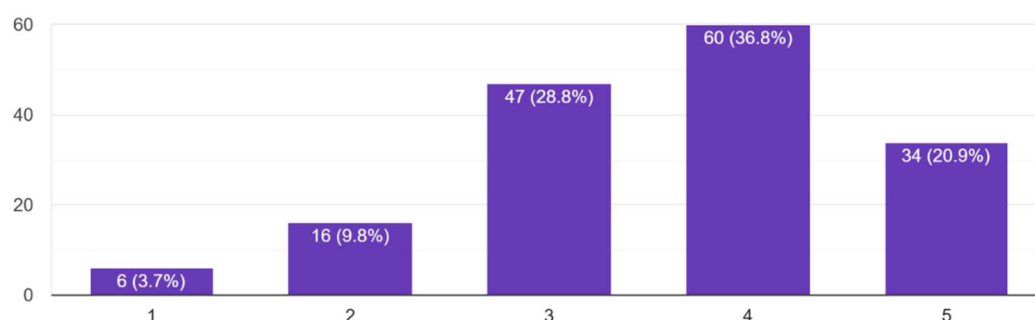
6. 遠泳実習の完遂は、ご子息の「自己肯定感」や「困難に粘り強く取り組む精神力」の向上に繋がったと感じますか。(「1」あまり感じない⇔「5」大いに感じる)

163 件の回答



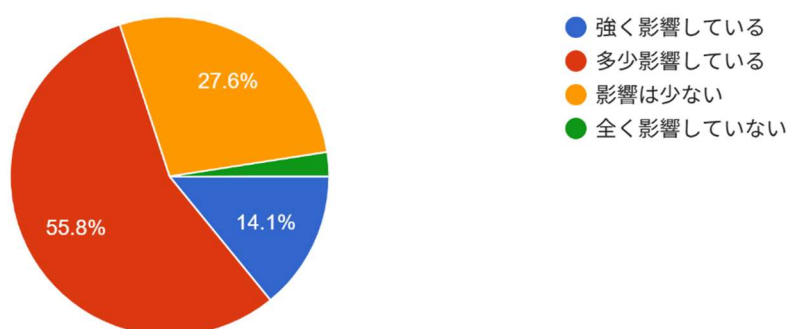
7. 「理想の水族館企画」を通じ、ご子息の「複数の知識（理科、社会、技術）を統合し、プロジェクトを構想する力」が向上したと感じますか。（「1」あまり感じない⇔「5」大いに感じる）

163 件の回答



8. 3年間で得た海洋教育の経験は、ご子息が「高校以降の進路（学部選択や職業）」を考える上で、具体的な影響を与えていると感じますか。

163 件の回答



9. 本校の海洋教育について、ご感想やご意見がありましたら、簡潔にお書き下さい。（自由記述 83）

<遠泳実習>

「遠泳の完泳」に対する満足度が極めて高く、身体的な成長だけでなく、「精神的な成長」を認める回答が突出している。3年間の海洋教育が「一生の財産」になると確信する、感動的な記述が多く見られる。

「1.5km という距離に不安そうでしたが、完泳後の自信に満ちた表情を見て、親が思う以上に成長しているのだと涙が出ました」、「仲間と励まし合い、限界を突破した経験は、これからの受験や人生の大きな糧になると確信しています」等。

<海洋学>

「3年間の集大成としての企画力・発表力」に驚く声が多かった。「この企画を通じて将来の進路（水産系や環境系などに限らず）を具体的に考え始めたようだ」という、進路意識への結びつきを指摘する回答もあった。

中1から中3になる過程で見られた変化や成長

<選択式質問から見る変化>

中1では「指示通りに動く」ことに必死だったが、中3では「状況を判断し、自らを律して最後までやり抜く」という、内面的な強さ(非認知能力)の向上として明確に現れている。

学年が上がるにつれ、「海は怖い」という漠然とした不安が、「ルールを守り、準備をすれば安全に活動できる」というリスク管理意識(損失を最小限に抑えるため事前に対策を講じる姿勢)へと置き換わっているように思える。

<自由記述から見る成長>

中1・中2の「楽しかった」「できた」という直接的な感想から、中3では「この経験が自分にどう影響したか」という洞察へと変化している。

生徒についてのまとめ

中1では「自分の興味」だったものが、中2で「他者の視点」を取り入れ、中3では「社会への実装」へと、探究のスケールが拡大している。

自由記述においては、中1では「楽しかった」「面白かった」という情緒的な言葉が多いのに対し、中3では「～という観点から、～が必要だと考えた」といった論理的な表現が目立つようになった。

生徒・保護者に共通する「海洋人間学」の捉え方

「逗子開成でしかできない学び」であるという認識が共通しており、これが生徒の自己肯定感と、保護者の学校に対する高い満足度の源泉となっている。

生徒・保護者ともに、実際に海に行き、ヨットを操り、泳ぐという「実体験」が伴っているからこそ、総合学習での探究(水族館企画など)が「自分事」として深く入ってくると捉えている。また、ネット上の情報だけでなく、「本物」に触れる価値があるという捉え方も見られた。

体育(遠泳・ヨット)、社会(環境・地理)、理科(気象・生物)などが、バラバラの知識ではなく「海」というキーワードで一つの「知」としてつながる感覚を、生徒も保護者も高く評価している。

逗子開成中学校の「海洋人間学」は、当校の伝統である逗子海岸での「ヨット制作・帆走実習」や「遠泳実習」に加えて「海洋人間学×総合学習」によって構成されています。シーマンシップを育む体験をベースに「海洋教育」と「探究活動」の要素を結びつけた、全国唯一と言える非常にユニークな取り組みです。

私は2021年に東京大学大学院教育学研究科海洋教育センターのスタッフ（当時）として「海洋人間学×総合学習」の立ち上げに関わり、それ以来、海洋人間学における生徒の学びの様子を見学する機会を得てきました。2025年は中学3年生の「理想の水族館を企画する」の発表会に参加しました。

当日は200件以上のポスター・口頭発表がありました。数年前にも同じ発表会に参加しましたが、その時は観光（体験、エンターテインメント、SNS等）をテーマとした水族館の企画が多くを占めていました。それに対して、今回の発表会では、生徒各自のアイデアを活かし、「海洋教育」「非日常体験」「地域振興」「テクノロジー」など、多様な視点からテーマを設定した企画が数多く発表されました。特に、車椅子の方、寝たきりの方、視覚障害者、病院入院者、さらに刑務所に収容されている方といった社会とのつながりを持ちにくい人々にも目を向けた企画の発表が複数あったことが印象的でした。水族館を娯楽施設や学びの場としてだけでなく、社会課題の解決や社会厚生に貢献する場として捉えるという、生徒たちの柔軟な発想と社会問題への関心の高さに深く感心しました。

さらに、スライドを使ったプレゼン発表においても、全ての発表を聞いたわけではありませんが、私が聞いた発表では、全員が伝えたいポイントを強調しながら、自分自身の言葉でわかりやすく聴衆に向けて発表しており、その自信を持った姿に感銘を受けました。数年前の発表会の時に比べても生徒たちのプレゼン能力が明らかに向上していることが分かりました。海洋人間学では中学1年で「海に関する土曜講座を企画する」、中学2年で「日本の水族館・動物園を廃止すべきである是か非か」をテーマに活動に取り組んでいますが、それら活動を通じて発表やディベートを繰り返し経験したこと、さらに教員の皆さんの適切なアドバイスによって、生徒ひとりひとりの表現力や自己肯定感が着実に向上していることを実感できました。

これからの海洋人間学のさらなる発展が非常に楽しみです。今後は、逗子や生徒自身の地元の街を対象としてより具体的な企画提案ができるとよいと思います。また、海洋人間学の成果を、高校での探究活動にも活かしてもらいたいと思います。実際、今年5月に幕張メッセで開催された日本地球惑星科学連合大会では、大会メインステージで逗子開成の高校生チームが逗子海岸の地形・地史について堂々と発表する姿を見ることができました。さらに、海洋教育の全国発表会においても、逗子開成の生徒が参加生徒同士のディスカッションのコーディネーターを率先して担っています。このように逗子開成で「海洋人間学」を学んだ生徒さんたちが、全国の海洋教育のユースリーダーとして活躍することを大いに期待しています。